

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000143		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム 真寿苑 Bフロア		
所在地	愛知県豊橋市牟呂町字東明治郷下1番地		
自己評価作成日	平成25年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地		
訪問調査日	平成27年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である「全ては利用者様の笑顔のために」を基に、利用者様個々の生活リズムを尊重しながら安心して充実した日々を送って頂けるよう支援しています。職員が寄り添いながら見守る事で、出来る事を継続して行なって頂ける環境を整えています。職員が常に利用者様の目線に立ち、思いを共有しながら支援する事を意識し、出来ない部分をさりげなくフォローする事で利用者様の気持ちの部分の配慮に努めています。また、高齢者施設の特色を活かし、グループホームでの入浴が困難な方については1階の機械浴を使用する事で安全に入浴を楽しんで頂く環境を整えています。施設全体で地区のお祭りに参加する等の地域交流を行なうと共に、個別での外出機会を増やす事で、利用者一人一人が地域との関係を図れる様取り組んでいます。包括支援センターとも連携を図り、地域の方々に対し、認知症相談のちらしを配布したり町の居場所作りにも力を入れ、地域との繋がりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者それぞれの思いに向き合い、思いに添える支援とは何かを常に考え、出来ることを見つけて取り組むように心がけている。利用者からの要望を汲み取り、個別の外出支援を増やすように努めている。今年度は、法人が特に地域の居場所作りを事業計画の一つとしているので、会議でも市から職員が説明に訪れるなど、高齢者福祉施設の中のグループホームとして、地域との関わりを大切にしている。認知症相談窓口の設置や施設見学会を催すなど、積極的に地域へ情報発信を行っている。地域支え合い活動としての地域の居場所作りとして「ぬくといカフェ」の開催を予定している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の介護理念をより深く掘り下げ、職員一人ひとりに分かり易くする事で、より実践に繋げる様努めている。また、法人の理念を下に自施設でのフロア目標を掲げる事で、理念をより身近な物として感じて頂けるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の園児との交流を始め、高校の文化祭に参加したり、日常的にスーパーにおやつの買い物に出かけたりと1年を通して地域との繋がりを意識している。また、定期的に近隣へ清掃活動に出かけたり、認知症相談のチラシを配布したり、町の居場所づくりに力を入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生、高校生の職場体験を受け入れながら、実際に支援の方法や接し方を見て頂き、認知症への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に開催し、地域の区長や民生委員、利用者のご家族様など様々な立場の方々と情報交換を行っている。また、地域・施設それぞれの催しについての情報交換や認知症カフェ開催に向けての情報交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の更新や運営推進会議の議事録等を長寿高齢課の担当者に直接報告し、情報交換を行う機会を設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する指針を基に、職員一同、利用者様を抑制したり、制止することないように支援にあたっている。また、研修にも参加する事で、知識の習得にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、知識を学ぶと同時に入浴時や着替えの際には身体の確認を行ない、施設全体で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するなど知識の向上に努めているが、職員全体に周知しているわけではない為、今後、施設内にて勉強会などを開催する事で周知の徹底を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の方針やあり方、取り組みを細かく説明を行う事で、円滑な契約を押し進めている。また、終末期や医療連携体制などに関しては同意書を使用し理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回サービス向上アンケートを実施し、結果を基に改善に努める事でより良いサービスの提供に繋げている。また、ケアプラン説明時に関しても、ご家族様の要望、希望を取り入れるよう配慮している。面会時にもさりげなくご家族様の要望を聞くよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを意識し、定期的に個人面談を行う事で職員一人ひとりの思いや価値観を理解し、全体会議にて施設の方向性と照らし合わせながら個々の意見や提案を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員との距離感を意識しながら、職員個々の心身面に注意を払いながら関わりを持っている。また、個人面談の際には、向上心を持つ事が出来るよう働きかけている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や意欲に応じて、施設内、外の研修に参加させる機会を設ける事で個々のレベルアップに努めている。また、今年度より法人内の研修に力をいれ、年間を通じてスキルアップできるような体制をとっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月毎に連絡協議会に参加する事で、他事業所との意見交換や情報交換を行なっている。また、勉強会や行事も開催する事で職員同士も交流を図る事が出来ている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートを基に本人様の身体状況や生活歴、要望などを細かく把握する事で、サービス導入時には不安や心配事の軽減を図っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅でのご家族様の思いや考え方を傾聴し、施設入所にあたっての、希望、要望を出る限り反映させながら、サービスを提供出来る様に努めている。また、入居後も連絡を密に取る事で少しでも早く安心して頂けるように配慮している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をしっかりと見極めながら、より迅速に対応するよう努めている。また、緊急性の高い方に関しては、法人内の事業所と連携を図り、よりスムーズにサービスを提供出来る体制を整えている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや、洗濯干しやたたみ等、日常的に行なう家事は職員と一緒にして行ない、出来る喜びや楽しみを共有すると共に、感謝の気持ちを忘れず、相互の関係性の構築を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の状況や身体の状態などを毎月、手紙にて報告すると共に、面会時やお祝い事の際には利用者様とご家族様が楽しく過ごす事の出来る環境を整えながら関係性の構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様、ご家族様の希望に応じて、なじみのある病院への通院やお墓参り、馴染みの方との面会など今まで築いてきた関係性を持続できる様に配慮している。また、ご家族様との連携を図りながら場合によっては職員が対応する事で、関係持続の幅を広げられるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の性格をしっかりと把握した上で、他者の方との関係性や、孤立してしまわないように配慮しながら交流場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、関係が途切れてしまわないように常日頃からご家族様との連絡を密に取り、信頼関係の構築を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から積極的にコミュニケーションを図る事で、利用者様個々の思いや考え方を職員一人ひとりが把握し、ケアプランを基に思いを尊重した統一したサービスを提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接記録やフェースシート等を使用する事で現在に至るまでの情報を把握し、また、ご家族様にも情報提供して頂く事でより細かい生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面接記録やフェースシート等を使用する事で現在に至るまでの情報を把握し、また、ご家族様にも情報提供して頂く事でより細かい生活暦の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の希望、要望を踏まえながら、職員から見た本人様の思いや心情といった観点からも話し合う事で、今現在必要としているサービスが提供出来る様に努めている。また、3ヶ月に1度必ずモニタリングを行い、状態に合わせてサービス内容を変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や状態変化、職員や他者の方との関わり等、個別に介護記録に残す事でケアプランの見直しやよりよいサービス提供に繋がるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様の希望や状況に合わせて通院や送迎、買い物等のサービスを提供する事で利用者様一人ひとりとご家族様の満足を得られる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生のボランティアや園児との交流、近隣の航行の文化祭やお祭りに参加する事で地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医は下より、ご家族様、本人様の希望にて、入居前にかかりつけ医だった医療機関も受診できるよう配慮している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が利用者個々の健康状態を把握し、協力医との連携を図る事で往診記録や医療面での情報の充実化を目指している。また、看護職員不在の場合に事故や医療処置が必要である場合は必ず電話連絡を行い、看護師指示の下、行なうよう徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活の情報や支援内容を医療機関に提供し定期的にお見舞いに行く事で常に状態把握に努めている。また、ご家族様との連絡も密に取る事でスムーズに退院できる様な体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・ご家族様の希望を下に、かかりつけ医と連携を図りながら、個々の終末期に向けて早い段階から方針について話し合いを行い、ドクターとご家族様が直接話し合いをする場を設ける事でより納得して頂けるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・緊急時に備えてそれぞれにマニュアルを用意し、全職員が周知出来るようにすぐに確認できる場所に保管してある。また、定期的に救命講習の研修に参加し、実践出来るよう対策をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、様々なケースを想定しながら避難訓練を行っている。また、他フロアの事業所とも連携を図りながら施設全体での訓練にも努めている。消火器や簡易発電などの使用方法についても実際に行う事で実践に備えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を敬う気持ちを忘れず、利用者一人ひとりが不快と感ぜないような距離感に配慮しながらの対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個々のペースに合わせて支援が出来るよう配慮し、食事や入浴、就寝時間など出来る限り本人様の希望がかなう様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムを把握する事で職員本意の支援にならない様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや整容に関しては本人様の意向に沿って行なっているが、困難な方に関しては、さりげなく準備し、会話をしながら支援する事で介護されていると感じないように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳など職員と一緒にやって行う事でただ食べるだけにならない様配慮している。また、お互いの関係性を大切に考え、座席なども変更する事で楽しく食事を摂って頂ける様に配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日記録に残す事で全職員で把握し、苦手なものなどがある場合には嗜好品を提供し代替する事で摂取量の確保に努めている。食事量の少ない方に関しては高カロリー補助食品を使用し栄養・水分の確保を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声掛けを行い、個々の状態に合わせて見守り・介助する事で清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンや時間帯を把握する事でよりスムーズに排泄が行なえる様支援している。また、必要時のみパットを使用するなどの対応をする事で少しでも自立に向けた取り組みを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前のおやつにはなるべく乳製品の物を提供し、毎日の排便チェックを行う事で個々の排便のリズムを全職員が把握出来る体制を整えている。便秘が見られる方に関してはセンナ茶を提供し出来る限り下剤は服用しないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様個々の希望や時間帯に合わせて入浴できる様支援している。また、複合施設の利点を活かし、入浴困難な方に関しては状態に合わせて1階の機械浴を使用して頂く事で安全に安心して入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごす事が出来る様支援する事で夜間はゆっくりと休んで頂く事が出来る様に努めている。また、昼夜問わず、その日の状態に合わせて休息する時間を設けたり、職員が寄り添う事で安心して頂ける環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を個々の薬入れ・個人ファイルに挟んで置く事で、いつでも確認する事の出来る体勢を整えている。また、受診先でも現在服用している内服薬の情報を医療機関に報告できるよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テラスでの園芸・塗り絵や作品づくりなど、個々に興味がある事に関しては継続して行なって頂ける様支援している。また、塗り絵や書道などの作品については、廊下などに飾る事で本人様のモチベーションを上げるよう継続して頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1度は職員と一緒に個別におやつのお買出しに出かける事で、外出する機会を設けている。また外出レクとは別に本人様の強い要望などに関してはご家族様協力の下、外出できる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各ご家族様了承の下で金銭を所持して頂き、新聞や広告などで得た情報から利用者様自身が欲しいと思った物を購入出来るように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や話をしたい方の希望があれば、職員が間に入り、スムーズに電話が掛けられるよう支援している。また、携帯電話を利用されている方も見える為、充電などの管理を行い、いつでも話が出来る環境を整えている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間に関しては、安全に居心地良く過ごして頂けるよう余計な物等はおかず、季節に合わせて生花や作品などを展示する事で変化を楽しんで頂ける空間作りを目指している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複合施設特有の広さを利用し、廊下にマッサージ器や椅子を設ける事で個々の時間を過ごして頂ける空間を設けている。居間に関してはソファの位置をあえてテレビより遠くに設置する事で気兼ねなく会話を楽しむ事の出来る空間を整えている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はその方のプライベート空間であり、使い慣れた物・思い入れのある物などを配置する事で少しでも自宅で生活していた状態になるよう努めている。また、それぞれの配置も本人様、ご家族様と相談の上、出来る限り希望に添えるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなど広く設計されており、車椅子などを使用する場合でも安全に移動する事が出来る。また、トイレや各居室に名前などを張る事で視覚的に分かり易い様努めている。			